

平成 24 年度 看護師特定能力養成 調査試行事業実施状況報告（9 月）

1. 報告時期：平成 24 年 9 月末までの実施状況を報告
2. 対象課程数：※ 報告依頼日（平成 24 年 9 月 13 日）までに指定した課程を対象とした。

（A）修士課程 調査試行事業：6 大学院 10 課程

3. 報告内容：（別添）

○ 評価について

- ・ 講義や演習にかかる学生の評価方法については、口頭試問・面接・筆記試験・技術試験・レポート・シミュレータ・患者・OSCE・プレゼンテーションが用いられていた。
- ・ 評価者は、指導医、教員（医師、看護師、薬剤師）が行っていた。

○ 教員について

- ・ 専門知識を系統的に教授できるようにとの理由から科目全般に医師が配置されていた。医師以外には、看護師や薬剤師等が配置され、臨床経験や教育経験等を勘案して教員の要件を設定していた。
- ・ 教員間の実習・演習における評価基準の共有や統一については、以下のような方法で行っていた。
 - 演習や実習の評価に関わる教官は、メールによる情報交換や定例会議の開催により、評価基準を共有する。
 - 演習・実習前に必ず、履修内容・評価方法について確認を行う。
 - 実習での指導者のコメントを共有する。
- ・ 全ての養成課程で、実質的に全体を把握できる教職員として、豊富な臨床経験を有する医師や看護師が配置されていた。

○ **看護師特定能力養成課程として必要と考える設備・備品について**

- ・ 報告があった養成課程の多くが、以下の書籍や視聴覚教材、演習用のシミュレータ等を必要としていた。
 - 自己学習に活用：医学書、英文献、医療・保健に関する最新の知識が得られる雑誌、研修医レベルの参考雑誌、診療ガイドライン等の書籍
 - 診察、臨床推論に活用：フィジカルアセスメント等に関する視聴覚教材
 - 演習時に活用：高機能生体シミュレータ、挿管シミュレータ、超音波診断装置、動脈血採血モデル、胃瘻交換モデル等の人体模型等のシミュレータ
- ・ 報告があった養成課程の多くが、インターネット接続可能な PC の設置と、シミュレーションが実施できる広さの演習室が必要と考えていた。

○ **臨地実習時のインシデント・アクシデントの発生状況**

- ・ 発生の報告はなかった。

○ **業務試行事業からのフィードバック**

- ・ 養成課程での学内演習やシミュレーションに関する教育資材が不足しているというフィードバックに対しては、カリキュラムの変更や、教材の充実等の対応がとられていた。
- ・ 薬理学や画像の見方に対する知識が不足しているというフィードバックに対しては、講義内容の再検討や実習指導医と実習内容にかかる調整が行われていた。

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名：大分県立看護科学大学大学院：(老年)

担当者： 藤内 美保

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。(* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。)

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
フィジカルアセスメント特論 ・ 筆記試験 ・ OSCE ・ プレゼンテーション	1. 医療面接 2. 全身のフィジカルアセスメント 3. 頭頸部のフィジカルアセスメント 4. 胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメント 5. 胸部（心血管系）のフィジカルアセスメント 5. 腹部のフィジカルアセスメント 6. 神経系のフィジカルアセスメント 7. 四肢のフィジカルアセスメント	大学教員（医師） 大学教員（看護師）
老年アセスメント演習 ・ OSCE ・ アセスメントレポート ・ プレゼンテーション	1. 急性症状を伴い包括的健康アセスメントが必要な事例の医療面接と臨床推論 2. 慢性疾患をもち継続治療が必要な事例の医療面接と臨床推論 （以下 医療面接の評価） 1) 面接の進め方 2) 面接で必要な情報を得る 3) 適切な身体診察を行う 4) 患者教育と治療への動機付け	医師 大学教員（看護師）
生体機能学特論 ・ 筆記試験	以下に関する知識 1. 人体の構成単位 2. 細胞・組織 3. 筋骨格系 4. 神経系	大学教員（医師）

	5. 感覚器系 6. 循環器系 7. 呼吸器系 8. 消化器系 9. 内分泌系 10. 血液造血器系 11. 腎・泌尿器系 12. 生殖器系 13. 栄養と栄養素 14. タンパク質代謝と脂質代謝 15. ビタミンとミネラル	
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
老年臨床薬理学特論（予定） ・筆記試験	以下に関する知識 1. 薬物の作用様式と作用機序 2. 薬物動態 3. 薬害と有害作用 4. 薬の投与設計 5. 医薬品の関与する医療事故 6. 医薬品インタビューフォーム 7. 各種治療薬各論（糖尿病、高血圧、COPD, 認知症等）	大学教員（薬剤師）
老年薬理学演習 ・レポート ・プレゼンテーション	1. 各種治療薬を必要とするケースの薬物治療に関するアセスメント 2. 薬物治療の計画とモニタリングを含めた薬物療法のマネジメント	医師、薬剤師

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
老年診察診断学特論 ・筆記試験	以下に関する知識 1. 病歴のとり方 2. 診察の進め方 3. 初期診療の基本検査のすすめ方と評価 4. X線検査の画像の読み方 5. 心電図検査の波形の読み方 6. 超音波検査の画像の読み方	大学教員（医師） 医師

	<p>7. 全身症状および皮膚の診かたと所見の解釈</p> <p>8. 肺・胸郭系疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>9. 心血管系疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>10. 腹部および肛門・直腸疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>13. 運動器（四肢・背部・脊柱）疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>14. 脳・神経系疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>15. 眼科疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>16. 耳・鼻・口腔領域の疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>17. 泌尿器系疾患とその主要症状の診かたとおよび検査所見の解釈</p> <p>18. 救急患者の診かたと所見の解釈（死亡診断、簡単な創傷処置含む）</p>	
<p>病態機能学特論</p> <p>・筆記試験</p>	<p>以下に関する知識</p> <p>1 退行性と進行性の病変</p> <p>2. 代謝異常・循環障害</p> <p>3. 炎症・免疫</p> <p>4. 腫瘍</p> <p>5. 先天性疾患・小児疾患</p> <p>6. 病理：呼吸器疾患</p> <p>7. 病理：消化器系疾患</p> <p>8. 病理：造血系疾患・心血管系疾患</p> <p>9. 病理学：腎・泌尿器系疾患</p> <p>10. 病理：内分泌系疾患脳・神経系疾患</p> <p>11. 病理：運動器系疾患</p> <p>12. 病気臓器の標本観察、細胞診</p>	<p>大学教員（医師）</p> <p>医師</p>
<p>老年疾病特論（予定）</p> <p>・筆記試験</p>	<p>下記の各系統別疾患と症状・治療に関する知識</p> <p>1. 基本的な輸液</p> <p>2. 糖尿病の継続治療と薬剤</p>	<p>医師</p>

	3. ペインコントロール 4. 高血圧症患者の薬物治療と調整 5. 脂質異常症の薬物治療と調整 6. 消化器系症状と治療 7. 栄養療法 8. パーキンソン病の継続治療 9. 感染症と抗菌薬の使い方 10. 老年期うつ病 11. 認知症 12. COPD の継続診療	
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

＜演習時＞ * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
老年アセスメント演習 上部（フィジカルアセスメント科目）に記載	上部（フィジカルアセスメント科目）に記載	医師、大学教員（看護師）
老年薬理学演習 上部（臨床薬理学関連科目）に記載	上部（臨床薬理学関連科目）に記載	医師、薬剤師
老年実践演習 ・演習時の技術習得度チェック	1. 局所浸潤麻酔 2. 褥瘡の壊死組織に対するデブリードマン（皮下組織の範囲） 3. 縫合抜糸 4. フットケア 5. 人工呼吸器による換気補助の設定と調節 6. 非侵襲的陽圧換気法の導入と気道内圧の設定 7. 気道挿管 8. 胃ろうカテーテル交換 9. 動脈穿刺による採血法 10. 気管カニューレ交換 11. 画像検査の理解と読み方（X線撮影・CT検査） 12. 画像検査の理解と読み方（MRI検査・血管撮影検査） 13. 超音波検査に関する撮影技術（頸部、腹部）	医師

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気管カニューレ交換に関する要望があった。 <p>* 教員や学生の意見をもとにした変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定行為を行う看護師の活動をイメージし、今後の学習を動機づける体験があるとよい。 ・ 特定行為を行う看護師としての倫理観、患者や医療関係職者等との人間関係形成力を高めるための体験を強化するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年 NP 実践演習の実技項目に気管カニューレ交換を加えた。 ・ 1 年次に修了生の活動する施設に実習を導入した。

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。

1. 診察診断に関する視聴覚教材
2. 解剖、病態、薬物治療に関する医学書（内科学など）
3. 各疾患の診療ガイドライン
4. 研修医レベルの参考雑誌（レジデントノート、イヤernoteなど）
5. 医師国家試験問題集

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

- ・ アセスメント演習で使用する演習室
医療面接や身体診察ができ、かつ複数の教員と学生が見学できる広さ。
具体的には、学生 1 名に対し外来診察室 1 つ
OSCE の場合は、試験室の外から試験室内を評価しやすいようにマジックミラーつきの部屋があるとよい。
- ・ 技術演習で使用する演習室
学生数に応じたベッドが配置でき、ベッドサイドにシミュレーターや超音波検査等を使用した技術が実施できる広さが必要。さらに、学生がいつでも自由に練習が行えるとよい。高機シミュレーターについては、専属のインストラクターがいるとよい。

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

- ・ PC でレポート作成ができるデスク（広さは、全学生が使用するデスクが入る広さ）
- 必要な物品：PC、プリンター、スキャナ、必要な図書と設置できる棚

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	① 超音波エコー（腹部、心臓、表在） ② 老年NP実践演習で腹部や心臓等のエコー検査をトレーニングする	1台（全員で共有）
	① 診察セット ② フィジカルアセスメント、演習、実習を通して対象者の身体所見をとるのに必要	学生1人あたりに1ヶ
視聴覚教材（CD、DVDなどの教材名）	① 診察診断、鑑別診断に関する視聴覚教材 ② 診察診断学や老年疾病特論、演習などにおいて鑑別診断の考え方や実践力を高めるために必要	約30種類（全員で共有）
	① フィジカルアセスメントに関する視聴覚教材 ② フィジカルアセスメント、演習科目などで学習を深める場合や自己学習用に使用	約10種類（全員で共有）
高機能シミュレーター	① SimMan 高機能シミュレーター、心音・呼吸音・腸蠕動音シミュレーター ② フィジカルアセスメント、演習等の科目で教材として使用	各1体
人体・臓器模型	① 動脈血採血モデル、胃ろう交換モデル、フットケアモデル、気管内挿管モデル、縫合モデル、直腸診モデル、前立腺モデル、眼底鏡モデル、耳鏡モデル、乳がんモデル、気管カニューレ交換モデル、腹部診察モデル、婦人科内診モデル、 ② フィジカルアセスメント、演習等の科目にて教材として活用	動脈血採血モデルは学生1人あたり1ヶ 他モデルは各1（全員で共有）

4. 教員について

1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

<ol style="list-style-type: none"> カリキュラムの根幹となる部分（科目目標や方法論）は、大学内の会議で討議し合意して、シラバスに反映している。 各科目の評価については、科目のスタート前に科目コーディネーターが当該科目を担当する教員を集め、評価案を提示し、話し合いの上作成する。 科目コーディネーターは、各担当教員に正式に決まった評価基準をメールで配信し評価の統一を図る。 各科目修了後に、評価結果を担当教員間で共有し（Web上）、次年度の評価と見直しのための会議を行う。

5. 目標変更等が必要な場合は会議での検討につなげる

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか
(該当する方に○印をご記入下さい)。

→ (はい・いいえ)

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割 (例：学生の到達度管理やメンタルケアなど) について、具体的にご記入下さい。

* 本学は複数の課程をもつため、老年と小児を統括する統括主任 1 名 (A)、老年 NP 担当の主任 1 名 (B) の 2 名体制であり、AB に分けて記載する。

①職種：(A)・(B) 大学教員

③ 件：(A)・(B) 臨床経験、大学院教育の指導資格をもつ (博士学位)

④ 位：(A)・(B) 教授

④担当科目：(A) フィジカルアセスメント学特論、課題研究

(B) 老年 NP 特論、老年アセスメント演習、老年 NP 実習、看護倫理学特論
課題研究

⑤役割： (A) 能力到達度の管理、全体的カリキュラム管理、
修了生のフォロー、メンタルケア

(B) 老年 NP 課程に関するカリキュラム管理、
老年 NP 専門科目の到達度管理、メンタルケア、特定看護師としての
就職活動支援、講義・実習等を指導する医師との連携調整

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名：国際医療福祉大学大学院（慢性期）

担当者： 荒井 孝子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験、実技試験（OSCE）	フィジカルイグザミネーション：身体診察技術、問題への対応能力、医療面接技術を確認するために OSCE を実施する。OSCE では、口頭試問をして学生の診察・判断の根拠を問うこともある 知識の確認は、筆記試験で実施する。	分野担当教員（医師、看護師） 筆記試験：出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する 実技試験：医師 5 名および模擬患者による学生評価を行い、最終成績は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験	診断学入門： 診察・判断の基礎能力を問うために筆記試験を実施	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験	総合診断学： 診断に関する知識について確認する	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	臨床薬理学特論： 薬理学の基礎から臨床に必要な薬理学の知識については、知識確認試験を行う	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	疾病管理学 I： 広い学習範囲の知識が獲得でき	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養

	ていることを確認するために、試験は2回に分けて実施する（予定）	成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	疾病管理学Ⅱ： 広い学習範囲の知識が獲得できていることを確認するために、試験は2回に分けて実施する（予定）	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	臨床解剖学特論・臨床病態生理学特論： 臨床において、解剖と病態生理は切り離して考えることはできないため、2科目を網羅した試験問題で学生の知識や理解を確認した	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	臨床栄養学/運動療法学： 疾病の管理に必要な栄養および運動療法についての基礎知識について確認する（予定）	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する（予定）

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
講義内での参加度、口頭発表	ナースプラクティション論： グループワークでの貢献度、態度、役割の遂行、提出されたレポート	科目担当教員（看護師）
演習中の技術習得の確認	フィジカルエクサミネーション： 学生同士で診察する看護師と患者の役割を遂行し、診察技術を高める。指導にあたる医師は随時学生へ診察技術について指導	担当講師（医師）
学生同士による医療面接の実際を全員が実施	診断学入門： 医療面接を個別に学生同士で実施した後、クラス全体で医療面接を実施し、問診技術、面接態度等	担当講師（医師）および学生

	についてフィードバックする	
医療事故とリスクマネジメント	医療プロフェッショナリズム論： 症例を4M4Eマトリックス法 で分類しプレゼンする。	担当講師（医師）および学生
電子カルテの入力の実際、ケース にする質疑応答、最後に出される 実際の診療費による比較など	医療 ICT 論： 電子カルテのシステムについて 理解し操作できる。 ペーパーペーシェントの診療を 小グループでディスカッション して、電子カルテ上で診断にかか る問題の抽出、鑑別診断すべき項 目の抽出、必要な検査のオーダ ー、検査結果の解釈、治療の提案 を一貫して行う	担当講師（診療情報士、医師、看 護教員）
医行為の基礎修得状況の確認（予 定）	疾病管理学Ⅲ： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定）	担当講師（医師）、看護教員
医行為の基礎修得状況の確認（予 定）	疾病管理学演習： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定）	担当講師（医師）、看護教員
最終的には実習前 OSCE としての 臨床能力を問うためにその成果 を実技試験で評価	臨床薬理学演習 診察・診断学演習： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定） OSCE（医療面接、問診技術、診察 手技、診断にかかる知識、必要な 検査等の抽出、検査結果の解釈と 患者への説明、治療方針、口頭試 問での受け答え）等	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養 成分野担当教員会議にて協議す る（予定）

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設 からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容 （来年度から変更予定のものはその旨も明記）
①医行為の修得のための学内演習の時間が不足	①平成 23 年度入学生よりカリキュラムを一部変更し

<p>していた</p> <p>②シミュレーションに関する教育資材が不足している</p>	<p>て医行為の修得に必要な演習を実施した。平成 24 年度より正式にカリキュラムを改編し、各疾病管理学あるいは疾病管理学演習の中で修得できるようにした。</p> <p>②平成 23、24 年に少しずつ学内のシミュレーション教材を購入し整備し、学内で学生が使用できるようにした。シミュレーション教育が継続できるように施設を確保した。</p>
---------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

<p>図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。</p>
<p>看護全般に関する図書、診察診断や疾病について理解するために必要な医学全般に関する専門図書。 診察技術の習得を促すための DVD を含めた視覚教材の整備。 論文作成のためには、一般教養図書～研究に関する図書等も必要</p>

<p>演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義および演習が同時に行えるような演習室がある ・ 簡単な診察や問診をするための机と椅子を備えたスペースがある ・ 模擬病室があれば、ACLS を含めたシミュレーション教育がよりリアルになる。

<p>自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。</p>
<p>学生 1 名あたり 1 デスク、1 PC が望ましい。</p>

2) 備品

	<p>具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。</p>	<p>数量</p>
<p>機械器具</p>	<p>①打腱器、ペンライト、瞳孔計、聴診器、音叉、検眼鏡、耳鏡 ②フィジカルイグザミネーション、診察技術の習得に使用</p>	<p>学生 1 人につき 1 ケ</p>
	<p>①縫合セット、模擬皮膚、結紮トレーナー、眼科用クーパー、有鉤撮子 ②疾病管理学演習（縫合、結紮、デブリートメント）</p>	<p>学生 1 人につき 1 ケ</p>
	<p>①超音波装置 カラードップラー（心臓用、腹部用） ②総合診断学、疾病管理学演習、診察診断学演習</p>	<p>最低 1 台</p>
	<p>①除細動器、レスピレータ ②疾病管理学Ⅲ（人工呼吸器管理、蘇生）</p>	<p>最低 2 台</p>
	<p>①挿管セット ②疾病管理学Ⅲ（人工呼吸器管理、蘇生）</p>	<p>学生 2 人につき 1 ケ</p>

視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①研修医のための基本技能 全 25 巻 ②フィジカルイグザミネーション、疾病管理学演習など	
高機能シュミレーター	①イチローまたは HARVEY ②フィジカルイグザミネーションにおける心音、肺音の診察	1
	①ALS シミュレータまたは Sim Man ②疾病管理学演習など (挿管、D C 管理)	1
	①乳房モデル、耳の診察シミュレータ、眼底の診察シミュレータ ②フィジカルイグザミネーション	学生 3 人につき 1 ケ
	①動脈採血シミュレータ ②疾病管理学演習 (血ガス採血、A ライン留置)	学生 3 人につき 1 ケ
	①挿管トレーナー ②疾病管理学演習 (気管挿管、抜管)	学生 3 人につき 1 ケ
	①C V 穿刺挿入シミュレータ、エコー ②疾病管理学Ⅲ (エコー下での C V 挿入)	学生 3 人につき 1 ケ
	①経管栄養シミュレータ ②疾病管理学Ⅲ (胃瘻装着患者のケア)	
人体・臓器模型	①超音波診断ファントム (腹部) ②総合	学生 3 人につき 1 ケ

4. 教員について

1) 教員間 (非常勤教員や臨床教授も含む) で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

分野の専任教員は 2 名であるが、その他科目担当教員が 7 名いるため、前期、後期定期的に教員会議を開催し、学生の学習、成績管理等について協議している。また、OSCE 等についても年度ごとの学生の能力を協議しながら課題の難易度の設定、作問、評価表の作成と評価について分担協力している。主に分野の専任教員が全体のコーディネータとなって各教員への打診、内容の修正など教育の窓口を一元化して調整をしている。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか (該当する方に○印をご記入下さい)。

→ (はい) (いいえ)

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割 (例：学生の到達度管理やメンタルケアなど) について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師
②要件：専任教員
③職位：准教授
④担当科目：NP 論、NP 研究法、臨床薬理学演習、診察診断学演習、疾病管理実習 I、

疾病管理実習Ⅱ、課題研究等

⑤役割：

- ・ 課程の教育カリキュラムの編成、シラバス作成、時間割の作成
- ・ 課程運営（教務連絡、予算管理、物品の購入、講師の依頼と連絡調整、担当教員の決定と配置、授業補助、講義資料の準備や資料確認、学生の出欠確認、試験内容の提案、採点補助、全体成績管理など）、実習計画書の作成、実習病院との連絡調整、各施設へのあいさつと調整、実習の全体管理と指導、指導医および実習生との面談、評価物の管理、課題研究指導（症例レポート作成含む）
- ・ 広報資料の作成（HP掲載資料の更新、パンフレットの作成、学生募集記事の準備など）
- ・ 実技試験の評価基準の作成、試験準備と実施・評価、成績管理：試験スケジュールの作成、試験問題作成依頼、問題管理と試験の実施、科目担当教員による成績および進級にかかる評価会の依頼、実施、成績の提出
- ・ 入学試験業務：入学試験に関するスケジュール管理、入学希望者の相談に対する個別対応、事前面談のための調整と実施、入学試験問題の作成、採点および評価
- ・ 修了試験：試験問題の作成（依頼と作成）、採点、評価
- ・ 学生の学習相談（スケジュール管理方法、勤務調整、勉強方法など）、実習病院の確保、学習到達度に関する学生指導や面接、退学・休学に関する相談への対応
- ・ 個人的な相談への対応
- ・ 就職相談

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名：国際医療福祉大学大学院（急性期）

担当者： 荒井 孝子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験、実技試験（OSCE）	フィジカルイグザミネーション：身体診察技術、問題への対応能力、医療面接技術を確認するために OSCE を実施する。OSCE では、口頭試問をして学生の診察・判断の根拠を問うこともある 知識の確認は、筆記試験で実施する。	分野担当教員（医師、看護師） 筆記試験：出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する 実技試験：医師 5 名および模擬患者による学生評価を行い、最終成績は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験	診断学入門： 診察診断の基礎能力を問うために筆記試験を実施	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験	総合診断学： 診断をするために必要な知識について確認する	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	臨床薬理学特論： 薬理学の基礎から臨床に必要な薬理学の知識については、知識確認試験を行う	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	疾病管理学 I： 広い学習範囲の知識が獲得でき	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養

	ていることを確認するために、試験は2回に分けて実施する（予定）	成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	疾病管理学Ⅲ： 広い学習範囲の知識が獲得できていることを確認するために、試験は2回に分けて実施する（予定）	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	臨床解剖学特論・臨床病態生理学特論： 臨床において、解剖と病態生理は切り離して考えることはできないため、2科目を網羅した試験問題で学生の知識や理解を確認した	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する
筆記試験（予定）	臨床栄養学/運動療法学： 疾病の管理に必要な栄養および運動療法についての基礎知識について確認する（予定）	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養成分野担当教員会議にて協議する（予定）

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
講義内での参加度、口頭発表	ナースプラクティション論： グループワークでの貢献度、態度、役割の遂行、提出されたレポート	科目担当教員（看護師）
演習中の技術習得の確認	フィジカルイグザミネーション： 学生同士で診察する看護師と患者の役割を遂行し、診察技術を高める。指導にあたる医師は随時学生へ診察技術について指導	担当講師（医師）
学生同士による医療面接の実際を全員が実施	診断学入門： 医療面接を個別に学生同士で実施した後、クラス全体で医療面接を実施し、問診技術、面接態度等についてフィードバックする	担当講師（医師）および学生

医療事故とリスクマネジメント	医療プロフェッショナル論： 症例を4M4Eマトリックス法 で分類しプレゼンする。	担当講師（医師）および学生
電子カルテの入力の実際、ケース にする質疑応答、最後に出される 実際の診療費による比較など	医療 ICT 論： 電子カルテのシステムについて 理解し操作できる。 ペーパーペーシェントの診療を 小グループでディスカッション して、電子カルテ上で診断に必要な 問題の抽出、鑑別診断すべき項目の 抽出、必要な検査のオーダー、 検査結果の解釈、診断と治療の 提案を一貫して行う	担当講師（診療情報士、医師、看護 教員）
医行為の基礎修得状況の確認（予 定）	疾病管理学Ⅲ： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定）	担当講師（医師）、看護教員
医行為の基礎修得状況の確認（予 定）	疾病管理学演習： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定）	担当講師（医師）、看護教員
最終的には実習前 OSCE としての 臨床能力を問うためにその成果 を実技試験で評価	臨床薬理学演習 診察・診断学演習： 各演習について、その都度修得度 を評価する（予定） OSCE（医療面接、問診技術、診察 手技、診断に必要な知識、必要な 検査等の抽出、検査結果の解釈と 患者への説明、治療方針、口頭試 問での受け答え）等	分野担当教員（医師、看護師） 出題は各講師、最終成績評価は養 成分野担当教員会議にて協議す る（予定）

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
①医行為の修得のための学内演習の時間が不足していた	①平成 23 年度入学生よりカリキュラムを一部変更して医行為の修得に必要な演習を実施した。平成

②シミュレーションに関する教育資材が不足している	24 年度より正式にカリキュラムを改編し、各疾病管理学あるいは疾病管理学演習の中で修得できるようにした。 ②平成23、24年に少しずつ学内のシミュレーション教材を購入し整備し、学内で学生が使用できるようにした。シミュレーション教育が継続できるように施設を確保した。
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
看護全般に関する図書、診察診断や疾病について理解するために必要な医学全般に関する専門図書。診察技術の習得を促すためのDVDを含めた視覚教材の整備。論文作成のためには、一般教養図書～研究に関する図書等も必要

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義および演習が同時に行えるような演習室がある ・ 簡単な診察や問診をするための机と椅子を備えたスペースがある ・ 模擬病室があれば、ACLSを含めたシミュレーション教育がよりリアルになる。

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
学生1名あたり1デスク、1PCが望ましい。

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	①打鍵器、ペンライト、瞳孔計、聴診器、音叉、検眼鏡、耳鏡 ②フィジカルイグザミネーション、診察技術の習得に使用	学生1人につき1ヶ
	①縫合セット、模擬皮膚、結紮トレーナー、眼科用クーパー、有鉤撮子 ②疾病管理学演習（縫合、結紮、デブリートマン）	学生1人につき1ヶ
	①超音波装置 カラードップラー（心臓用、腹部用） ②総合診断学、疾病管理学演習、診察診断学演習	最低1台
	①除細動器、レスピレータ ②疾病管理学Ⅲ（人工呼吸器管理、蘇生）	最低2台
	①挿管セット ②疾病管理学Ⅲ（人工呼吸器管理、蘇生）	学生2人につき1ヶ

視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①研修医のための基本技能 全 25 巻 ②フィジカルイグザミネーション、疾病管理学演習など	
高機能シミュレーター	①イチローまたは HARVEY ②フィジカルイグザミネーションにおける心音、肺音の診察	1
	①ALS シミュレーターまたは Sim Man ②疾病管理学演習など (挿管、D C 管理)	1
	①乳房モデル、耳の診察シミュレーター、眼底の診察シミュレーター ②フィジカルイグザミネーション	学生 3 人につき 1 ケ
	①動脈採血シミュレーター ②疾病管理学演習 (血ガス採血、A ライン留置)	学生 3 人につき 1 ケ
	①挿管トレーナー ②疾病管理学演習 (気管挿管、抜管)	学生 3 人につき 1 ケ
	①C V 穿刺挿入シミュレーター、エコー ②疾病管理学Ⅲ (エコー下での C V 挿入)	学生 3 人につき 1 ケ
	①経管栄養シミュレーター ②疾病管理学Ⅲ (胃瘻装着患者のケア)	
人体・臓器模型	①超音波診断ファントム (腹部) ②総合	学生 3 人につき 1 ケ

4. 教員について

1) 教員間 (非常勤教員や臨床教授も含む) で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

分野の専任教員は 2 名であるが、その他科目担当教員が 7 名いるため、前期、後期定期的に教員会議を開催し、学生の学習、成績管理等について協議している。また、OSCE 等についても年度ごとの学生の能力を協議しながら課題の難易度の設定、作問、評価表の作成と評価について分担協力している。主に分野の専任教員が全体のコーディネータとなって各教員への打診、内容の修正など教育の窓口を一元化して調整をしている。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか (該当する方に○印をご記入下さい)。

→ ((はい)・いいえ)

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割 (例：学生の到達度管理やメンタルケアなど) について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師
②要件：専任教員
③職位：准教授

④担当科目：NP 論、NP 研究法、臨床薬理学演習、診察診断学演習、疾病管理実習Ⅰ、疾病管理実習Ⅱ、課題研究など

⑤役割：

- ・ 課程の教育カリキュラムの編成、シラバス作成、時間割の作成
- ・ 課程運営（教務連絡、予算管理、物品の購入、講師の依頼と連絡調整、担当教員の決定と配置、授業補助、講義資料の準備や資料確認、学生の出欠確認、試験内容の提案、採点補助、全体成績管理など）、実習計画書の作成、実習病院との連絡調整、各施設へのあいさつと調整、実習の全体管理と指導、指導医および実習生との面談、評価物の管理、課題研究指導（症例レポート作成含む）
- ・ 広報資料の作成（HP 掲載資料の更新、パンフレットの作成、学生募集記事の準備など）
- ・ 実技試験の評価基準の作成、試験準備と実施・評価
- ・ 成績管理：試験スケジュールの作成、試験問題作成依頼、問題管理と試験の実施、科目担当教員による成績および進級にかかる評価会の依頼、実施、成績の提出
- ・ 入学試験業務：入学試験に関するスケジュール管理、入学希望者の相談に対する個別対応、事前面談のための調整と実施、入学試験問題の作成、採点および評価
- ・ 修了試験：試験問題の作成（依頼と作成）、採点、評価
- ・ 学生の学習相談（スケジュール管理方法、勤務調整、勉強方法など）、実習病院の確保、学習到達度に関する学生指導や面接、退学・休学に関する相談への対応
- ・ 個人的な相談への対応
- ・ 就職相談

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 9 月 30 日

課程名： 聖路加看護大学大学院(老年)

担当者： 亀井智子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
実技試験	事例 (paperpation) について、胸部の聴診、打診、視診、四肢動脈、触知、下肢静脈血栓のホーマン徴候を触知	看護教員
プレゼンテーション（60 分で 4 人で発表）	プレゼンテーションの内容（頭頸部、目の診方、耳の診方、リンパ節の診方）	看護教員

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
該当なし	該当なし

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患(湿疹など)の診断、治療に関する本(Bed store 含む) ・老年医学会が出している老年学の図書 ・老年医学に特化した薬理や内科の図書 ・老年医学に特化した内科の画像診断に関する図書が必要

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイド(病室)と外来診察室の再現 ・動脈穿刺、経鼻胃管挿入や経口胃管挿入を学内でやれる広さ ・抜糸の練習 ・外来診察室の広さで、上下水道付、血圧計(壁掛け)、ベッド1台、電動移動式いす・ベッド1台、処置用具の置ける広さ ・シャーカステン

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
机・本・PC

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	① 縫合用セット、糸、針、手袋、消毒 ② 老年看護学演習 2 で縫合の演習を行う	学生 1 人に 1 セット
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材)	① せん妄を発症中の患者の状況が描写されている DVD ② 老年看護学演習 1 で演習として使用する	学生 全 体 で 1 枚

名)	① 認知症の人に問診をする時の言葉、タッチングの DVD ② 老年看護学演習 2 で実技演習の前段階の学習を行う	学生全体 で1枚
	①穿孔、縫合、抜糸の DVD ②老年看護学演習 1 で実技演習として使用する	学生全体 で1枚
	①認知症を診断するための CT・MRI・PET など、画像診断の技術を習得するための DVD ①老人の皮膚疾患について理解するための DVD ①医療面接の DVD ②老年看護学実習の事前学習として各自閲覧する	学生全体 で1枚
高機能シミュレーター	①老人で嚥下障害があるモデル人形、肺炎が聴診出来るモデル人形 ②老年看護学実習の事前学習として各自実習する	1台
人体・臓器模型	①皮膚模型 ②老年看護学実習の事前学習として各自実習する	1式

4. 教員について

- 1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

メールを使用し、実習の開始前に具体的な実習内容を連絡する。

- 2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか（該当する方に○印をご記入下さい）。

→ (はい)・いいえ

- 3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割（例：学生の到達度管理やメンタルケアなど）について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師
②要件：学部長
③職位：学部長、研究科長、教授
④担当科目：応用形態機能学、基礎看護学特論 I～II、演習 I～III、看護技術学特論 I～II、演習 I～III
⑤役割：看護師特定能力養成 調査試行事業の事務局及び全体の報告会議などを実施している。各領域毎の担当者を統括、また研究科委員会の長として看護師特定能力養成 調査試行事業の決議、実習内容の確認などを行っており、本学研究科委員会に報告を行っている。

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 9 月 30 日

課程名：聖路加看護大学大学院（小児）

担当者：及川 郁子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
昨年度修得済み		

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

* 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
該当なし	該当なし

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
小児医療・保健に関する最新の知識が得られる雑誌

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
現在の授業内容は外来を中心とした小児を対象としているため、学内演習より現場実習を重視している。通常のフィジカルイグザミネーションができる広さがあればよい。

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
LAN 機能を含めコンピューターが利用できる環境

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	①聴診器、耳鏡・眼底鏡、打鍵器など ②フィジカルイグザミネーションの授業で	学生数分
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①子どものフィジカルアセスメントに関する DVD Pediatric Heart Sounds (心音・呼吸音) に関する DVD ②クラスおよび事前・事後学習として	2～3本

4. 教員について

1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

<p>①演習・実習前に必ず、履修内容・評価方法等について確認を行っている。</p> <p>②実習場で直接指導を受けながら、必要時指導者のコメントを記載するようになっているため、適宜その内容を看護教員も共有しながら学生の指導を実施している。</p> <p>③演習・実習の単位認定者（最終評価者）は看護教員であるため、適宜カンファレンス等を開催し、担当者の意見を踏まえて共有・統一化を図っている。</p>

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか（該当する方に○印をご記入下さい）。

→ （はい、いいえ）

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割（例：学生の到達度管理やメンタルケアなど）について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師

②要件：学部長

③職位：学部長、研究科長、教授

④担当科目：応用形態機能学、基礎看護学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅲ、看護技術学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅲ

⑤役割：看護師特定能力養成 調査試行事業の事務局及全体の報告会議などを実施している。各領域毎の担当者を統括、また研究科委員会の長として看護師特定能力養成 調査試行事業の決議、実習内容の確認などを行っており、本学研究科委員会に報告を行っている。

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名： 聖路加看護大学大学院(精神)

担当者： 萱間 真美

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
実技試験	事例 (paperpation) について、胸部の聴診、打診、視診、四肢動脈、触知、下肢静脈血栓のホーマン徴候を触知	看護教員
プレゼンテーション（60 分を 4 人で発表）	プレゼンテーションの内容（頭頸部、目の診方、耳の診方、リンパ節の診方）	看護教員

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
レポート（予定）	臨床薬理概論、薬物動態学と相互作用、Special Population（高齢者、妊婦、小児）における薬物療法、薬が効くということ（主作用 vs 副作用、薬理学的作用 vs 臨床的効果）、剤形・投与方法のエビデンス、適切に使うための医薬品情報（薬の添付文書活用法）、現場から学ぶ臨床薬理（薬害、看護師が知っておくべき薬事法、医療過誤）、医薬品の臨床開発システム（非臨床試験から市販後まで、一般薬・サプリメント等と医療薬）	看護教員

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
プレゼンテーション（予定）	プレゼンテーションの内容 （発熱・脱水、嘔吐・腹痛、リンパ節腫脹、臨床検査の意義、頭痛・高血圧、貧血・出血傾向、ショック・チアノーゼ、痙攣・意識障害、浮腫・黄疸、呼吸困難の診方）	医師教員
レポート（予定）	レポートの内容 （発熱・脱水、嘔吐・腹痛、リンパ節腫脹、臨床検査の意義、頭痛・高血圧、貧血・出血傾向、ショック・チアノーゼ、痙攣・意識障害、浮腫・黄疸、呼吸困難の診方）	医師教員

<演習時>

評価方法	評価項目	評価者
面接	・看護の臨床推論や判断および看護実践の妥当性 （具体的評価項目） 対象者の精神症状アセスメント 対象者の薬物療法に関する情報収集について 対象者の身体的状態のアセスメント 主治医の治療方針に関するアセスメント 家族および社会の状況に関するアセスメント 対象者の薬物療法に関する総合的評価 対象者の薬物療法に関する介入の必要性に関する評価 主治医とのコミュニケーションのあり方に関する評価 対象者および家族とのコミュニ	萱間 真美（看護教員）

	<p>ケーションのあり方に関する評価</p> <p>・ 演習態度</p>	
レポート	<p>・ 看護の臨床推論や判断および看護実践の妥当性 （具体的評価項目）</p> <p>対象者の精神症状アセスメント</p> <p>対象者の薬物療法に関する情報収集について</p> <p>対象者の身体的状態のアセスメント</p> <p>主治医の治療方針に関するアセスメント</p> <p>家族および社会の状況に関するアセスメント</p> <p>対象者の薬物療法に関する総合的評価</p> <p>対象者の薬物療法に関する介入の必要性に関する評価</p> <p>主治医とのコミュニケーションのあり方に関する評価</p> <p>対象者および家族とのコミュニケーションのあり方に関する評価</p> <p>・ 実践報告の論述</p> <p>テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切性、文献活用の適切性</p>	萱間 真美（看護教員）

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

<p>看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容</p>	<p>上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）</p>
<p>該当なし</p>	<p>該当なし</p>

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
訪問看護および精神薬理に関する文献

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
臨床教員等の多人数でのディスカッションが可能な広さの演習室

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
データ分析および情報整理を行うパソコン等の情報処理端末が設置されている。 自習室の広さは、特に希望なし。

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	①訪問看護物品一式（VS 測定、服薬援助物品など） ②演習実習で活用	1

4. 教員について

1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

演習および実習前後に、教員間でその目的、目標およびその達成のための実施内容を書面と口頭にて確認している。その際に評価基準についても確認している。 また、実習・演習期間中に適宜メール等で連絡を取り、学生の状況を評価基準と照らし合わせている。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか（該当する方に○印をご記入下さい）。

→ (はい)・いいえ

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割（例：学生の到達度管理やメンタルケアなど）について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師
②要件：学部長
③職位：学部長、研究科長、教授
④担当科目：応用形態機能学、基礎看護学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅲ、看護技術学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ

～Ⅲ

⑤役割：看護師特定能力養成 調査試行事業の事務局及全体の報告会議などを実施している。各領域毎の担当者を統括、また研究科委員会の長として看護師特定能力養成 調査試行事業の決議、実習内容の確認などを行っており、本学研究科委員会に報告を行っている。

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名： 聖路加看護大学（周麻酔期）

担当者： 宮坂勝之

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
1 年次 口頭試問	術前診察（既往歴聴取、患者全身状況評価 (ASA-PS)、上気道評価、挿管困難評価、呼吸音の評価、心音の評価、四肢運動機能評価、神経支配デルマトームの評価）	麻酔科指導医
2 年次 毎日の実習の中で評価しているため試問とはしない		

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
1 年次 口頭試問	吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、鎮静鎮痛薬、筋弛緩薬、血管作動薬、輸液製剤の作用、薬力学、薬動力学など臨床薬理的な知識、	麻酔科指導医
2 年次 1 年次で試問済み		

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
1 年次 筆記試験	術前評価（項目酸-塩基平衡、呼吸生理学、循環生理学全般）で、麻酔前に関わる知識	麻酔科指導医
2 年次 筆記試験	術中、術後評価項目（酸-塩基平衡、呼吸生理学、循環生理学全般）で、麻酔中、術後に関わる知識	麻酔科指導医

＜演習時＞ * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
1年次（予定）	BLS, PALS を中心に、緊急気道確保、蘇生を行い、シミュレーター の蘇生につながるかを評価	麻酔科指導医
2年次 口頭試問	特別な危機的状況（挿管困難、悪性高熱症、甲状腺クライシス、出血性ショック、アナフィラキシー、気胸発生、気道閉塞発生、気道火災）への対応の適切性、迅速性を評価	麻酔科指導医

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

* 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
該当なし	該当なし

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。

日、英の麻酔科学の教科書：Miller. Pediatric Anesthesia、Critical Care Medicine Anesthesiology Anesthesia and Analgesia, 麻酔、Lisa,

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

高機能生体シミュレーターと麻酔器、モニターが動作できる手術室環境と、その様子を観察記録、分析できる機能が必要。超音波診断装置、静注シミュレーター、神経ブロックシミュレーター、挿管シミュレーターが設置できる広さが必要。

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

通常の図書館で、PC-インターネット接続環境で、背骨の骨格標本が設置できる。

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	① 麻酔器、患者モニター、挿管用具、エコー装置、 ② 周麻酔期看護学実習	学生5名に 対し一式
視聴覚教材(CD、DVD などの教材名)	① BD プレーヤー、PC、プロジェクタ ② 日常的に行う PBLD(problem based learning and discussion) とシミュレーターを合わせた講義	学生4-5名 毎
高機能シミュレー ター	① METI 高機能生体シミュレーター ② 模擬手術室での麻酔実習（のべ40時間（予定））	1台
人体・臓器模型	① 挿管シミュレーター、 ② 実習室での実習（のべ20時間（予定））	1式

4. 教員について

- 1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

現在実際に評価に関わる教官は2名。同じ病院の同じ診療科に属し、終日行動をともし、情報を交換し、カンファレンスにも同時参加して、同一の価値観を共有するようにしている。

- 2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか（該当する方に○印をご記入下さい）。

→ （はい・いいえ）

- 3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割（例：学生の到達度管理やメンタルケアなど）について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師
②要件：学部長
③職位：学部長、研究科長、教授
④担当科目：応用形態機能学、基礎看護学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅲ、看護技術学特論Ⅰ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅲ
⑤役割：看護師特定能力養成 調査試行事業の事務局及全体の報告会議などを実施している。各領域毎の担当者を統括、また研究科委員会の長として看護師特定能力養成 調査試行事業の決議、実習内容の確認などを行っており、本学研究科委員会に報告を行っている。

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 2 日

課程名：東京医療保健大学大学院（クリティカル）

担当者：石川 倫子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
レポート	フィジカルアセスメントに必要な基礎知識	看護教員
レポート	フィジカルアセスメントの実施方法と自己課題	看護教員
筆記試験	医療面接時の聴取項目と病態との関連	医師（臨床教授）
筆記試験	診断のための検査データの解釈	医師（臨床教授）
筆記試験	X線撮影の原理と放射線の影響	大学教員
筆記試験	胸部・腹部X線検査の読影	医師（臨床教授）
レポート	クリティカル領域に遭遇する症状に対する臨床推論過程	医師（臨床教授）

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
レポート	薬物動態の理解	薬学部で薬剤師の養成にかかわる大学教員
筆記試験	薬物の安全管理と選択	薬学部で薬剤師の養成にかかわる大学教員
筆記試験	クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解	医師（臨床教授）

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
レポート	人体の構造と機能	大学教員
レポート	病態生理の理解	医師（臨床教授）

筆記試験	各疾患における病態、診断に関する検査、治療の理解	医師（臨床教授）
------	--------------------------	----------

＜演習時＞ * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験（予定）	腹部超音波の必要性の判断とデータ評価（予定）	医師（臨床教授）
筆記試験（予定）	CTの必要性の判断とデータ評価（予定）	医師（臨床教授）
筆記試験（予定）	動脈血採血の方法の理解（予定）	医師（臨床教授）
筆記試験（予定）	ショック事例、発熱、腹痛事例等の診察・診断までの過程の理解（予定）	医師（臨床教授）
レポート（予定）	診断後の患者・患者家族への支援（予定）	看護教員
筆記試験（予定）	救急・重症患者の治療管理の理解（予定）	医師（臨床教授）
筆記試験（予定）	集中治療管理の理解（予定）	医師（臨床教授）
筆記試験（予定）	呼吸管理の理解（予定）	医師（臨床教授）
技術試験（予定）	縫合の技術（予定）	医師（臨床教授）、
筆記試験（予定）	クリティカル領域で遭遇する疾病に対する薬物療法の理解（予定）	医師（臨床教授）
レポート（予定）	シミュレーション「急変事例時の状況判断とその対応」後のアセスメント及び技術に関する自己の課題（予定）	看護教員

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成23・24年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
<p>○臨床推論能力は修了時点でとてもよくできている。その推論能力に関する医学的知識の不足はない。</p> <p>○知識・技術ともによくトレーニングされている。</p> <p>○個人によって医行為の修得に差があるので、最低限修得する項目を決めてほしい。実施できる医行</p>	<p>○実習での医行為は項目ごとに到達度目標を定めている。今年度の各実習の医行為の実施状況を把握</p>

<p>為の項目を増やしてほしい。</p> <p>○薬理学で1回使用量、限界量などの理解を教授してほしい。</p> <p><修了生より></p> <p>○腹部超音波の実施の判断・実施に際しての知識と技術をもう少し時間をかけて行ってほしい。</p> <p>○胸部・腹部X線写真、CTの画像を評価できるための基礎的な知識を講義し、演習でできるだけ多くの症例を使った画像評価を行ってほしい。</p> <p>○臨床で活用できる薬理学の知識を講義・演習に取り込んでほしい。</p>	<p>し、各実習場で修得する医行為を指導医師に周知する。(予定)</p> <p>○胸部・腹部X線写真、CTの画像を評価できるための基礎的な知識を講義で教授しているが、学生の理解レベルより難度が高い。そのため学生の理解レベルを考慮した講義内容をより具体的に講義していただけるよう講師と調整をする。(予定)</p> <p>○腹部超音波検査についても上記と同様である。</p> <p>○臨床薬理学については昨年度から実践で活用できるように、事例を用いて薬物療法の具体を学んでいる。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。

- 急性期看護関連の国内、海外学会誌、情報誌
- 医学教育に関連した国内雑誌
- 研修医及びレジデント対応の国内雑誌
- 基礎医学（解剖学、生理学、病理学、各疾病論など）関連の本
- フィジカルアセスメント、診察診断に関連した本
- ガイドライン、治療指針
- クリティカル領域に関連した看護ケアの本
- チーム医療関連の本

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

学生数 20 人の場合

- 教室：80m²
- 実習室（シミュレーション可能な広さと講義ができる広さ）：150m²
- 演習室：20m²×5 部屋

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

学生が 20 名の場合

- 院生室：70m²：プレゼンテーションの練習が可能な設備が整っている。
視聴覚教材が整備されている。

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
高機能シミュレータ	① 気道管理トレーナー ② 「診断のためのNP実践演習」で気管挿管の技術トレーニングに使用している。	5
	① ALSシミュレーターアドバンスド 周辺モニター付き ② 「診断のためのNP実践演習」「治療のためのNP実践演習」胸痛患者への診察・診断、治療の選択の学習内容を、事例を用いて実際にトレーニングするときに活用している。いわゆるACLSトレーニングを行っている。	1
	① 動脈採血シミュレータ ② 「診断のためのNP実践演習」で動脈採血の技術トレーニングに使用している。	5
	① 胸部診察トレーニングシステム イチローとラング（外部スピーカーシステム付き） M8481-S ② 「フィジカルアセスメント学演習」で胸部の診察時に異常と正常の区別を学習するときに活用している。	1
	① 縫合練習キット ② 「治療のためのNP実践演習」で縫合時に活用している。	23
機械器具	① 超音波診断装置 ② 「診断のためのNP実践演習」で超音波検査の理解と技術習得に活用できる。	1
視聴覚教材（DVD）	① 系統的な身体診察法—全身を診るための診察に関するDVD ② 「フィジカルアセスメント学演習」で学生が自己学習するために活用している。	14
	① 研修医のための基本技能（修得する医行為）に関するDVD ② 「治療のためのNP実践演習」で学生が自己学習するために活用している。	2

4. 教員について

1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

実習における評価基準については、教員間は毎月1回開催している大学院統合実習担当者会議の中で共有を図っている。臨床教授とは①実習開始前に開催される臨床教授会（医師と看護教員、看護部で構成）で評価表の説明、②実習担当の看護教員と当該実習の臨床教授との打ち合わせ会で再度確認しあう、③実習中や評価表を付ける段階で評価医師と実習担当の看護教員間で再度確認し、共通認識を図っている。

演習においても同様に科目責任者である看護教員と臨床教授間で、到達の確認を演習前、演習中、演習後と確認し合っている。さらに臨床教授が評価に困ったときも科目責任者と連絡し合えるように大学として対応している。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか
(該当する方に○印をご記入下さい)。

→ (はい)・いいえ

3) 2) で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割(例：学生の到達度管理やメンタルケアなど)について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護教員

②要件：教育全般を理解した上で、学生に対する指導能力、臨床教授等とのコミュニケーション能力を持つこと

③職位：准教授

④担当科目：

「クリティカルNP特論」「フィジカルアセスメント学演習」「治療のためのNP実践演習」「診断のためのNP実践演習」「統合実習」「研究特論」「課題研究」

⑤役割：

- ・臨床教授との講義・演習・実習内容の調整
- ・実習施設との学習環境に関する調整
- ・学生の実習指導・就職指導
- ・学生のメンタルケア
- ・学生の到達状況の把握
- ・修了生の活動状況の把握と支援
- ・就職施設との連携

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名：東北文化学園大学大学院（周術期）

担当者：渡邊隆夫、遠藤雅人

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

< 必須科目 >

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験（予定）	系統的診察法 正常所見・異常所見 異常所見と鑑別疾患	遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 千田富義（非常勤講師・医師）
口頭試問（予定）	系統的診察法 異常所見と鑑別疾患	板垣恵子（大学院兼任・看護師） 遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師）
レポート（予定）	系統的診察法	板垣恵子（大学院兼任・看護師）
OSCE（客観的能力試験）（予定）	頭頸部視診・触診 胸部視診・触診・打診・聴診 腹部視診・触診・聴診 四肢の視診・触診・反射	遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 千田富義（非常勤講師・医師）

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験（予定）	薬物動態 神経系作動薬 心臓血管系作動薬 呼吸器系作動薬 血液製剤 抗生物質 抗炎症薬 外用薬	遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 礪山正玄（大学院専任・医師） 千田富義（非常勤講師・医師）
口頭試問（予定）	薬物動態 神経系作動薬 心臓血管系作動薬	遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 礪山正玄（大学院専任・医師）

	呼吸器系作動薬 血液製剤 抗生物質 抗炎症薬 外用薬	千田富義（非常勤講師・医師） 小出芳夫（非常勤講師・薬剤師）
--	----------------------------------------	-----------------------------------

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験（予定）	解剖学・生理学・病理学 循環器疾患 呼吸器疾患 消化器疾患 内分泌・代謝疾患 神経疾患 腎・泌尿器疾患 眼科・耳鼻科疾患 救急病態	近藤尚武（大学院専任・医師） 遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 礪山正玄（大学院専任・医師） 山口慶子（大学院兼任・医師） 松谷幸子（大学院兼任・医師） 千田富義（非常勤講師・医師） 山中宣昭（非常勤講師・医師）
口頭試問（予定）	解剖学・生理学・病理学 循環器疾患 呼吸器疾患 消化器疾患 内分泌・代謝疾患 神経疾患 腎・泌尿器疾患 眼科・耳鼻科疾患 救急病態	近藤尚武（大学院専任・医師） 遠藤雅人（大学院専任・医師） 渡邊隆夫（大学院専任・医師） 礪山正玄（大学院専任・医師）

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
臨床実技 bed side teaching 評価表およびレポート（予定）	本学臨床実習要項による 身体所見の把握 入院時・術前・術後検査実施時期の決定 血液・生化学検査の解釈 胸部X線読影・CT・MRIの読影 動脈穿刺による採血 造影剤の投与および投与後の患者安全管理	山内淳一郎（臨床教授） 内田寛昭（臨床教授） 稲沢慶太郎（臨床教授） 及川昌也（臨床教授） 遠藤雅人（大学院専任） 渡邊隆夫（大学院専任） 柿田徹也（臨床教授） 田畑俊治（臨床教授） 渡辺卓（臨床教授）

	<p> 予め留置されたスワン・ガンツカテ テルによる循環動態測定 動脈ライン確保 中心静脈ラインの確保 呼吸管理（酸素投与濃度等の調節） 術野管理（手術器械・臓器などの保 持・把持など） 小手術助手、皮膚、軟部組織の縫合閉 鎖 不良組織のデブリードマン 抜糸・抜鉤 経管栄養のカテーテル挿入・交換 胃瘻・腸瘻の管理とチューブの入れ替 え 静脈内への薬物投与 継続の薬剤や持続薬剤投与量の調節 代謝管理 輸液管理（総投与量・速度等の調節） 疼痛発熱時の対症療法 便秘異常・不眠時の対症療法 副作用監視・出現時の薬剤中止 脱水時の輸液 麻酔中の生体情報モニタリング 経食道超音波検査準備・プローベ挿入 アシスト 麻酔中の呼吸管理 麻酔中の循環管理 人工呼吸管理と離脱 人工呼吸器の操作・管理 気管挿管チューブの位置調節 気管挿管チューブ抜管 気管カニューレの交換 ドレーン抜去 透析機器の操作・管理 大動脈バルーンポンピングの動作管 理 一時的ペースメーカー操作・管理 人工呼吸管理下の鎮静 救急・集中医療患者の不整脈監視・管 </p>	<p> 石橋悟（臨床教授） 遠藤智之（臨床教授） 野村亮介（臨床教授） 佐藤大三（臨床教授） 武田和憲（臨床教授） 山田康雄（臨床教授） </p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	理 救急・集中医療患者の循環管理 救急患者の身体所見の把握・検査実施 時期の決定 救急患者の心電図スクリーニング 救急患者の気道確保・人工呼吸 救急患者の超音波検査 救急患者のトリアージ 救急患者のカテーテル挿入時の介助	
レポート（症例報告）（予定）	症例報告における 1) 病態・背景の把握 2) 臨床推論 3) 修得実技 4) 実技の応用 5) チーム医療への取組	遠藤雅人（大学院専任） 渡邊隆夫（大学院専任）

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成 23・24 年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報（フィードバック）を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。（変更予定の場合は括弧書きで（予定）と記入して下さい。）

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容（来年度から変更予定のものはその旨も明記）
該当無し	該当無し

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
解剖学・ 解剖学図譜 生理学教科書 病理学教科書・図譜 薬理学教科書・分野別薬物療法教科書・今日の治療薬（南光堂）など 各種臨床医学教科書、今日の治療指針（医学書院）など 定期購読の医学雑誌各種（救急医学雑誌、外科学雑誌、集中医療雑誌など）
演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

150 平方メートル程度、または 100 平方メートル程度 2 部屋 ウェットラボ用として：冷蔵庫、シンク（水周り）を備えること 縫合練習他、各種シミュレーター訓練などの機器収納庫を備えること
自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
1 人あたり 4 平方メートル程度に加え、約 20 平方メートル程度以上の共用スペース インターネット接続、学内 LAN 接続、白板、ミニキッチン（時間外の利用も多くなるため）

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのよう に活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	①外科手術器具（持針器、剪刀、ピンセットなど） ②外科治療学特別実習、縫合練習などを行う。	学生 1 人 に 1 セット
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ日常診療のための新・心エコー図検査の実際 ②外科医療病態診断学特論、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ腹部エコー検査 画像描出のコツ ②外科医療病態診断学特論、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ腹部エコー 急性腹症・緊急疾患 ②外科医療病態診断学特論、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ胸部X線写真読影のコツ ②外科医療病態診断学特論、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカル CD-ROM 日経メディクイズ 胸部X線 読影の基本 ②内科学総合講義、供覧・解説・評価にも使用可能	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオCTの基礎知識 胸部を診る ②内科学総合講義、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ頭部CTの基礎知識 アップデート ②外科治療学総合講義Ⅱ、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオMRIの基礎知識 頭部を診る ②外科治療学総合講義Ⅱ、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①日経メディカルビデオ内科医のための小児診療のポイント ②ライフサイクル医療論：小児診察の進め方総論で供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①正しい方法がわかる臨床基本手技 DVD from The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE (南光堂) ②外科治療学総合講義Ⅱ、供覧	1
視聴覚教材 (CD、DVD などの教材名)	①正しい方法がわかる臨床基本手技Ⅱ (DVD ROM 付) from The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE (南光堂) ②外科治療学総合講義Ⅱ、供覧	1
高機能シミュレー ター	①急変対応シミュレーター（ルールダル SimMan） ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習におい て、各種訓練を行う。現状では東北大学の設備を利用しているが養 成課程に整備することが望ましい。	1

高機能シミュレーター	①心肺蘇生シミュレーター(レールダルレサシアンシミュレーター) ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習において、各種訓練を行う。現状では東北大学の設備を利用しているが養成課程に整備することが望ましい。	2
高機能シミュレーター	①心音シミュレーター ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習において、心音聴取訓練を行う。現状では東北大学の設備を利用しているが養成課程に整備することが望ましい。	4
高機能シミュレーター	①呼吸音シミュレーター ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習において、呼吸音聴取訓練を行う。現状では東北大学の設備を利用しているが養成課程に整備することが望ましい。	4
高機能シミュレーター	①腹部超音波患者シミュレーターおよび超音波診断装置 ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習において、超音波診断訓練を行う。現状では東北大学の設備を利用しているが養成課程に整備することが望ましい。	1
人体・臓器模型	①動脈穿刺トレーニング用セット、中心静脈内挿管シミュレーター(3B Scientific)、胸部ドレーンシミュレーター(3B Scientific)、成人気管挿管トレーナー(3B Scientific)、気管挿管セット(松吉) ②外科治療学特別実習および麻酔・救急・集中医療特別実習において、各種訓練を行う。現状では主として東北大学の設備を利用しているが、養成課程施設に整備することが望ましい。	各3セット

4. 教員について

1) 教員間(非常勤教員や臨床教授も含む)で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

約2カ月に1度、専任教員、臨床教授、実習病院病院長などによる会議を定期的に行い、具体的実習項目の選定、評価基準の作成を共同で行ってきた。臨床実習要項はそのようにして作成したものであり根本的に共有・統一化されている。実習開始後も会議を定期的に行い実習病院間でもスムーズな共有・統一化および情報交換を推進している。また、1年次の3月には臨床実習指導者会議を開催する予定としている。
その他会議に係わらず実習病院に大学教員が随時訪問し、連絡を密に保つよう務めている。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか(該当する方に○印をご記入下さい)。

→ ○(はい)・いいえ

3) 2)で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割(例:学生の到達度管理やメンタルケアなど)について、具体的にご記入下さい。

①職種: 医師
②要件: 医師としての臨床経験15年以上、所属学会指導医などを有すること
③職位: (専任)教授
④担当科目: 臨床生理学、内科学総合講義、麻酔・救急・集中医療総合講義、健康福祉特別研究、麻

酔・救急・集中医療特別実習

⑤役割：各科目における教員の依頼・調整、実習病院訪問、病院実習における臨床教授との連絡、学生の到達度管理やメンタルケア

看護師特定能力養成 調査試行事業 中間報告書

平成 24 年 10 月 9 日

課程名： 北海道医療大学大学院（プライマリ・ケア）

担当者： 塚本 容子

看護師特定能力養成 調査試行事業の中間報告をいたします。（* 指定日にかかわらず 4 月以降の実施状況を実施予定も含めてご報告下さい。）

1. 評価について

<必須科目>

○フィジカルアセスメントに関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	フィジカルアセスメントに関する客観試験 <ul style="list-style-type: none"> ・健康歴の聴取 ・頭部・胸部・腹部・骨格筋・神経系などのフィジカルアセスメント ・精神・心理・社会的なアセスメント（認知症・うつ状態・DVスクリーニング） ・高齢者の身体的変化 ・フィジカルアセスメント実施時のスタンダードプリコーション実施 	教員（看護師） 教員（看護師）
実技試験	フィジカルアセスメント・臨床推論に関する実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・健康歴の聴取 ・頭部・胸部・腹部・骨格筋・神経系などのフィジカルアセスメント ・精神・心理・社会的なアセスメント（認知症・うつ状態・DVスクリーニング） ・高齢者の身体的変化 ・フィジカルアセスメント実施時のスタンダードプリコーション実施 	教員（看護師） 非常勤講師（医師、内科医） 非常勤講師（医師、家庭医）

○臨床薬理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	基礎薬理学（薬動態・薬力学・レセプターなど） 臨床薬理学（領域別毎：循環器に使用する薬剤など）	教員（医師・薬剤師） 教員（看護師） 非常勤講師（医師）

○病態生理学に関する科目

評価方法	評価項目	評価者
筆記試験	客観的知識（状況設定問題において、病態のアセスメント能力、臨床推論、治療に関する知識を評価）	非常勤講師（家庭医・専門医） 教員（看護師） 教員（看護師） 非常勤講師（栄養士）

※ 必須科目については、全科目修了時の修了試験を課している。修了試験の内容は、上記の筆記試験の内容をすべて含み、総合的な知識を問う問題となっている。

<演習時> * 演習には、医行為の修得の技術演習以外のグループワーク等も含まれます。

評価方法	評価項目	評価者
技術 シュミレーターを用いて実技評価	下記の技術習得度（予定） ・PICC （PICC 挿入のための適切な準備・挿入適応の確認、挿入のプロセス、無菌操作の実施、挿入後の管理） ・簡易内視鏡を用いた PEG 交換（予定） （PEG 交換のための必要な解剖整理） ・動脈血（橈骨動脈）採血（予定） （動脈血を用いた検査についての理解、正しい穿刺部位の確認、スタンダードプリコーションの適用と無菌操作の実施） ・乳房の触診（モデルを用いて）（予定） （触診による乳がんスクリーニングの適用、正しい触診方法と正常範囲外の把握、スクリーニング後の対応） ・前立腺の触診（モデルを用いて） （触診による前立腺肥大・がんのスクリーニングの適用、正しい触診方法と正常範囲外の把握、スクリーニング後の対応） ・フットケア （足病変リスクアセスメントス	教員（看護師） 教員（看護師） 非常勤講師（各専門領域の医師）

	クリーニングの対象、下腿潰瘍・下肢切断ハイリスク者に対する予防的フットケア実施)	
ケースディスカッション・ケースプレゼンテーション (PBL)	ケースレポート、ケースプレゼンテーションにより下記を評価(一部実施) ・患者の身体症状のアセスメント ・患者の精神・心理・社会面のアセスメント ・診断に関する検査 ・薬物療法原理の適用 ・治療に必要な処置	教員(看護師) 教員(看護師) 非常勤講師(医師、家庭医) 非常勤講師(栄養士)

2. 看護師特定行為・業務試行事業からのフィードバックについて

- * 平成23・24年度「看護師特定行為・業務試行事業」の対象看護師が修了した課程は記入して下さい。「看護師特定行為・業務試行事業 実施施設」から提供された情報(フィードバック)を踏まえて、養成課程の内容について変更した点がありましたら記入して下さい。(変更予定の場合は括弧書きで(予定)と記入して下さい。)

看護師特定行為・業務試行事業の実施施設からフィードバックされた具体的な内容	上記をふまえて変更した具体的な内容(来年度から変更予定のものはその旨も明記)
・実施できる医行為について明確ではない。実習の際に、どのように対応してよいのかわからない。	・実習の依頼の際に、厚労省が提示している医行為分類(案)を提示し説明(解決済み)。

3. 看護師特定能力養成 調査試行事業 養成課程として必要と考えている設備・備品について

1) 設備

図書室：どのような図書や雑誌が必要か、ご記入下さい。
基礎科学の図書(生理学、解剖学、微生物学、薬理学、病態機能学、公衆衛生学など) 臨床医学の図書(臨床推論、鑑別診断などの一般の臨床医学所及び循環器など専門分野毎) 教育に関する図書(教育一般、看護教育など) 医療統計に関する図書(研究実践、論文の理解のために) 医療倫理に関する図書 理論に関する図書(看護理論、公衆衛生学の理論、またはその他の理論) 心理学に関する図書 医療英語に関する図書

演習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。
2) 備品に挙げた物品がすべて入る大きさが必要 本学の定員が5名であるので、最低3台の診察台が置くことができ、且つ学生が演習するのに十分な広さが確保できる大きさが必要

自習室：どのような広さや機能が必要か、ご記入下さい。

自己学習や研究のために学生1名に対して、可能であればコンピューター式及び机と椅子があればよいと思う。コンピューターのソフトとして、WORDなどのワードプロセッサ、EXCELなどの表計算、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトが必要最低限必要。また、SPSSなどの統計ソフトあるとよい。カラー印刷できるプリンター、スキャナーも設備として望ましい。

2) 備品

	具体的に「①備品名、②活用方法（どの科目で、どのように活用するのか）」をご記入下さい。	数量
機械器具	① 縫合モデル及び縫合セット ② 演習にて使用	5セット
	① 検眼鏡・検耳鏡 ② フィジカルアセスメント特論	10セット
	① 顕微鏡 ② グラム染色・微生物学的検査の演習	1セット
視聴覚教材(CD、DVDなどの教材名)	① DVD ケアネットの臨床シリーズ ② 一部講義の中で使用（フィジカルアセスメント特論、病態治療論、薬理学特論）及び学生の自己学習	30種類
高機能シミュレーター	① イチローとラング ② フィジカルアセスメント特論及びOSCE	1
	① 乳がん触診モデル ② 疾病予防・管理についての演習	1
	① 前立腺触診モデル ② 疾病予防・管理についての演習	1
	① 動脈血採血モデル（橈骨） ② 演習で使用	1
人体・臓器模型	① 人体模型 ② フィジカルアセスメント特論 講義の中で解剖を確認	1
診察台	① 診察台 ② フィジカルアセスメント特論、OSCE	5台

4. 教員について

1) 教員間（非常勤教員や臨床教授も含む）で演習や実習における評価基準の共有・統一化をどのように行っていますか。具体的にご記入下さい。

講義・演習について

本学では、すべての科目においてシラバスが作成されている。シラバスでは、それぞれの講義の回ごとに学習の目的・目標を明確に記述しており、それらを基に非常勤講師に講義を依頼している。また教員と非常勤講師はE-mailなどを用いて、コミュニケーションを図っている。また統一された評価基準表の作成を行っている。本学養成コースの担当教員は2名いるが、定期的に会議を持ち、評価基準の共有、統一化を行っている。

2) 貴課程において、教務主任のような全体を実質的に把握する教職員がいますか（該当する方に○印をご記入下さい）。

→ (はい) (いいえ)

3) 2)で「はい」と回答された場合、その教職員の①職種、②要件、③職位、④担当科目、⑤役割（例：学生の到達度管理やメンタルケアなど）について、具体的にご記入下さい。

①職種：看護師

②要件：高度実践看護師としての臨床経験があること

③職位：講師以上

④担当科目：高度実践看護学特論・演習、フィジカルアセスメント特論、病態治療論、薬理学特論（高度実践）、疾病予防・管理論、臨床実習

⑤役割：総合的な学生の支援、学生のメンタルケア、就職相談など